

## 基礎臨床連携プログラム

11月13日（木） 08:40～10:40 第6会場（国立京都国際会館 本館1F Room F）

### 基礎臨床連携プログラム1

[BC1] 日本神経化学会共催シンポジウム 基礎臨床連携の実現による精神疾患研究の未来

座長：吾郷由希夫	広島大学大学院医系科学研究科細胞分子薬理学
牧之段 学	熊本大学大学院 生命科学研究院部神経精神医学講座 /
	藤田医科大学精神・神経病態解明センター変革融合精神医学部門

現在、様々な生命工学技術や脳活動計測法等が大きく発展してきているものの、精神疾患の成因・病態機構の解明や診断・治療法の開発は十分には進んでいない。この解決のためには、基礎・臨床双方からの課題提案、研究知見の共有と統合、有機的な連携が必要である。本セッションでは、日本神経化学会との共催シンポジウムとして、これまでの基礎臨床連携研究に精力的に取り組んでいる研究者から、最新の研究成果とともに、その具体例や結果得られたことについて幅広い観点から紹介する。また、基礎臨床連携の推進に向けたディスカッションを通じて、今後の精神医学・医療全体の課題解決の糸口を見いだす。

**BC1-1 臨床から基礎神経科学実験をデザインする：  
ASDのメルトダウン発作はモデルマウスから切り込めるか？**

林 朗子 理化学研究所 脳神経科学研究センター

**BC1-2 分子にこだわる神経化学研究**

田中 謙二 慶應義塾大学医学部

**BC1-3 基礎臨床連携のギャップを乗り越えろ！精神科医の立場から**

橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

**BC1-4 基礎臨床連携のためのトランスレータブルフェノタイプ・データセットの開発と利活用**

小池 進介 東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

11月13日（木） 13:10～15:10 第6会場（国立京都国際会館 本館 1F Room F）

## 基礎臨床連携プログラム2

### [BC2] 統合失調症／自閉スペクトラム症／ドパミン神経機能

座長：中澤 敬信 東京農業大学生命科学部

上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

統合失調症や自閉スペクトラム症（autism spectrum disorder: ASD）はともに有病率が高く、遺伝的背景や表現型は多様である。統合失調症では治療抵抗性患者の存在や、ASDでは中核症状に対する治療薬がない等、さらなる病態分子基盤の解明や治療法の開発が必要となっている。本セッションでは、臨床と基礎それぞれの演者から最新の研究成果とともに、新しい動物モデルや創薬シーズを紹介する。また、臨床上の問題点や次世代の治療・診断法に関する展望について触れ、病態の理解、疾患の克服に向けた現在の課題を整理し、基礎臨床連携の強化・新たな構築による解決の糸口を探る。

#### BC2-1 社会的コミュニケーションの困難に対する治療薬開発： 脳分子イメージングを核とした多階層双方向トランスレーショナル研究

山末 英典 浜松医科大学精神医学講座

#### BC2-2 統合失調症の臨床的特徴と基礎病態研究への展開

塩飽 裕紀 東京科学大学大学院 精神行動医科学分野

#### BC2-3 多様なドパミン予測誤差シグナルの発見から臨床学への発展に向けて

木村 生 北海道大学大学院薬学研究院

#### BC2-4 統合失調症の創薬を目指したVPAC2受容体標的脳移行性ペプチドナノ 製剤の開発

吾郷由希夫 広島大学大学院医系科学研究科細胞分子薬理学

11月13日（木） 16:40～18:40 第6会場（国立京都国際会館 本館 1F Room F）

### 基礎臨床連携プログラム3

[BC3] うつ病／双極症／ストレスシグナル

座長：成田 年 星薬科大学薬理学研究室  
中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

我が国は超高齢社会に突入し、またポストコロナと称される時代において、メンタルヘルスへの注目が高まっている。うつ病や双極症（双極性障害）は、複数の治療薬が開発され、薬剤選択の幅が広がってきているものの、その作用機序の詳細が未解明であることや治療抵抗性の存在が依然重要な課題であり、病態の理解とそれに基づく治療法の確立が必要になっている。本セッションでは、臨床と基礎それぞれの演者から最新の研究成果とともに、新しい動物モデルや創薬シーズを紹介する。また、臨床現場での問題点や今後の治療・診断法に関する展望について触れ、病態の理解や疾患の克服に向けた基礎臨床連携の強化や新たな構築に関する方策についても議論する。

#### BC3-1 基礎・臨床連携による双極症研究

加藤 忠史 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

#### BC3-2 臨床現場からの研究推進に向けた課題と展望

——精神科領域における基礎との連携と BHB 研究の実践から

岩田 正明 鳥取大学医学部精神行動医学分野

#### BC3-3 サイケデリック治療に着想を得たセロトニン 5-HT<sub>2A</sub> 受容体作動薬の創薬研究

衣斐 大祐 名城大学薬学部薬品作用学研究室

#### BC3-4 ストレス関連障害の治療薬創成を目指した低分子 PAC 1 受容体遮断薬の行動薬理学的研究

早田 敦子 大阪大学大学院 歯学研究科 薬理学講座 /  
大阪大学大学院 薬学研究科 神経薬理学分野 /  
大阪大学大学院 連合小児発達学研究科